



Title	逃婚歌集錦2 : ミャオ族
Author(s)	渋谷, 瑞江
Citation	北海道大學文學部紀要, 46(2), 1-39
Issue Date	1998-01-16
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/33702
Type	bulletin (article)
File Information	46(2)_PL1-39.pdf



[Instructions for use](#)

逃婚歌集錦 2 — ミャオ族

渋谷 瑞江

ミャオ（苗）族は、西南中国では有力な少数民族である。1990年時点での人口はおよそ740万人。歴史的にも早くから記録に現れ、とりわけ漢民族との抗争で目立つ結果になってしまった。しかし、かれらは歌好きな民族としても知られる。日本の歌垣にも似た「跳月」の習俗は革命以前からよく知られていた。

ミャオ族は、大きく二つのグループに分けられる。一つは東部集団というべき人々で、湖北西南端、湖南西部、貴州東南部、広西北部にわたる山地に住み、黔東方言を話す。以前は俗に「黒苗」と呼ばれていた。もう一つは西部集団で、貴州西部、四川西南部、雲南東南部、さらにベトナム・ラオスへと移動した人々で、川黔滇方言を話す。こちらは「花苗」と呼ばれた人々が多い。その他にも、明代に海南島先住民のリー（黎）族を押さえるために派遣されたミャオ族の子孫とみられる人々が、海南島に住んでいる*¹。

中華人民共和国成立後、少数民族地区の調査が行われたが、苗族は漢民族との関わりの歴史が長いいためか、調査の初期の段階でかなり詳しい記録がなされている。それらの成果は、1950年代からまとまったものとして刊行された*²。

逃婚歌も14の歌を集めることができた*³。前回のリス族とは異なり、長短さまざま、発表の時期も、早い時期のものと1980年代のものが見られる*⁴。リス族のものに較べると「整理」のレベルも様々なようである。それだけに採集調査時の臨場感が伝わって来るような気がする。殊に『民間文学資料集』に収録されたものについては、その感が強い。

ここで訳出した歌は13篇であるが、これは「k. 逃婚歌」（『民間文学』

1960年第10期)と『三月三』1984年第6期に発表された「逃婚調」が内容的にかなり似通っているので、ここでは取り上げなかったためである。採集地域が明示されているものは、大部分が東部集団に属するものとなっている。

注

- ☆1：村松一弥『中国の少数民族』（1973，毎日新聞社），『苗族簡史』（1985，貴州民族出版社），『苗族』（民族知識叢書，1993，民族出版社）など参照。
- ☆2：1958年，中国民間文学工作者第二次代表大会が北京で開かれ「全面搜集，重点整理，大力推广，加强研究」の方針が制定され，本格的な調査研究が始まった。翌59年には中国民間文芸協会貴州分会が成立した。ここで整理・翻訳された作品が57年（一説には54年）から『民間文学資料』として86年に至るまで刊行されている。ここには苗族をはじめ貴州省に住む各少数民族の文芸資料がおさめられている。
- ☆3：渋谷瑞江「逃婚歌集錦1——リス族「逃婚調」」（『北海道大学文学部紀要』45-3，1997.3，pp.166-170），駆け落ちのうたリスト参照。
- ☆4：間があいているのは，文化大革命によるものと考えられる。この時期，少数民族の文芸関係の主要な発表の場であった『民間文学』は休刊中だった（1966～78）。

(★は原注, ☆は訳注)

a 逃婚歌

『民間文学資料第5集(苗族叙事詩)』

苗族文学史編写組編 1959 pp.136-138

凱里県丹寨地区 李阿德(苗族) 1959年1月 歌唱

潘光華 1959年7月 搜集整理

哪時走？

雷時卯時走。

這時夜深人靜，

爸媽不知道，

寨上的人也不知道。

いつ行くの？

雷の時卯の時に行く。

夜更けて人々が寝静まる頃、

父さん母さんは分からない、

村の人たちにも分からない。

朝哪里走？

朝没有人烟的地方走。

走到了荒山僻野，

餓了就采摘山上的野桃，

用泉水洗干淨，

多則哥妹各一個，

少則哥妹咬一口。

這時我倆的心不跳了，

心里甜蜜蜜的呢，

我倆走到下場地方，

肚子餓了呢，

妹妹取出了七兩重的耳環，

拿去攤上買点蜜桃，

多則各一個，

少則各一口。

どこへ行くの？

誰も住んでいない所を目指すのさ。

人里離れた荒野へ行って、

お腹が空いたらヤマモモをもいで食べよう、

泉の水で洗って食べよう、

沢山とれたら一つずつ、

とれなかったら一口ずつ。

この時私たちはおびえたりはしない、

心は蜜のように甘い。

二人が街へ下りて、

そこでお腹が空いたなら、

いもうとが七兩の重さの耳飾りを外して、

桃の実を買きましょう、

沢山買えたら一つずつ、

少しだったら一口ずつ。

吃了我倆再向前走，
免得被人追上。

我倆朝哪邊走？
朝丫頸上走。
可是對面有人在捕雀，
我倆改朝水路走。
水路有人在捕魚，
守住七道河，
我倆坼回來朝樂然*走。
來到了渡口，
情郎一手牽情妹，
一手掌着船，
順水劃下去，
越過了暗礁，
走到南邊的地方。
有個侗族好心腸，
把我倆收留在他家。
可是深怕後面有人追，
我倆還是往別處跑。

不覺走到野鷄窩，
“好吧，我倆就住在野鷄窩”
幾天以後野鷄轉回來，
野鷄發痺氣，
說是有人占了它的窩。
妹妹膽量小，
深怕野鷄出去告訴人。
哥哥膽量大，

食べたらまた先へ進もう，
追手から逃れるために。

私たち二人はどこへ向かって行くの？
峠に沿って登って行こう。
でも雀捕りの人に出くわしたら，
私たちは溪流に沿って歩いて行こう。
でも魚釣りをする人がいて，
七つの河を守っていたら，
私たちは取って返して樂然へ向かおう。
渡し場に着いたら，
男が愛しいもうとの手をひいて，
一緒に船に乗る，
流れに乗って漕ぎ下り，
暗礁を乗り越えて，
南の方へ行こう。
そこの侗族の人々は心優しくて，
私たちを家に泊めてくれる。
でも追手が来るかも知れないから，
二人してもっと別の所へ行こう。

雉の巣に行き当たったら，
「よし，二人してこの雉の巣に住もう。」
何日かして雉が帰って来たら，
雉はかんしゃくを起こすだろう，
誰かに巣を横取りされたからだ。
いもうとは気が小さいから，
雉が人に告げてしまうのが心配だ。
にいさんは度胸があるから，

抽出腰刀斬野鷄，
晚上拿它來充飢。
忽然對門山出現了火把，
長刀短劍閃寒光。
這不是安靜的地方，
我倆又朝前跑，
順着山路往下梭，
不覺梭到了龍窩。
趁着龍王龍子不在的時候，
我倆避難在龍窩。
幾天以後龍王回家轉，
看見有人就發氣。

妹妹膽量小抖嗦嗦，
哥哥膽量大抽出腰刀，
殺死了老龍王，
把它當早餐。
這不是人的住所，
也不是人走的路，
我倆又往山上跑。

不覺到了野豬窩，
趁它出外去覓食，
我倆就住在它的窩。
幾天以後野豬回家轉，
張開獠牙要傷人。
妹妹心驚胆戰，
哥哥抽出腰刀，
斬斷野豬的頸，

刀を抜いて雉に斬りつける，
晩にはそれで飢えを満たそう。
突然向かいの山に松明が現れる，
刀や短剣が冷たい光を放つ。
ここは安住の地ではない，
二人でもっと先へ進もう，
山道を下って来ると，
龍の巣に行き当たった。
龍王と龍子のいない間に，
二人でこの巣に身を隠そう。
何日かして龍王が帰って来たら，
人がいるのを見て怒るだろう。

いもうとは気が小さくて震えるだろう，
にいさんは大胆にも腰の刀を抜いて，
龍王を殺すから，
それを朝飯にしよう。
ここは人の住む所ではない，
ひとが歩く道でもない，
二人して山を登って行こう。

猪の棲処に行き当たったら，
外へ餌をあさりに行っている隙に，
二人してその棲処に住もう。
何日かして猪が戻って来て，
牙を剥きだし襲いかかろうとする。
いもうとは肝を潰す，
にいさんは腰の刀を抜いて，
猪の頭を斬り落とし，

用肉来充飢。
吃完了野猪肉，
忽然对門山上現人影，
長刀短劍閃寒光。
這不是人住的地方，
也不是人走的路，
收拾衣物又往別處跑。

不覺到一個吃毒菌的人家，
我倆熬藥煎湯忙急救，
死人又重生。
哥哥同男人去耕田，
妹妹同女人去種地。
正想過下平靜的生活，
忽然外面有狗聲，
定是家里的人又來追。
哥妹急得朝後門溜，
翻過重重的山嶺，
涉過道道的河流。
披荊斬蕪到下方，
碰上一股清清的泉水。
泉邊開着很多花，
我倆吃着花兒，
又在泉邊洗個臉，
輕輕地哼個苦情歌。

還是繼續朝前走，
免得後面有人追，
不覺來到一個荒坡，

その肉で飢えを満たそう。
猪の肉を食べ終えたら、
突然向かいの山に人影が現れて、
刀や短刀が冷たい光を放つ。
ここは人の住む所ではない、
そして人の歩く道でもない、
荷物をまとめてよそへ行こう。

毒キノコを食べた一家に出会った、
私たち二人は薬を煎じて急場を救い、
死人は生き返った。
にいさんは男衆と一緒に田畑を耕し、
いもうとは女衆と一緒に種を蒔いた。
ようやく穏やかな日々が過ごせるかと思ったら、
突然外で犬の鳴き声がした。
郷里からの追手が来たに違いない。
二人はすぐさま裏口から逃げ出した、
幾つもの山を越え、
幾つもの河を渡った。
幾多の困難を乗り越えて山を下り、
きれいな泉のほとりにやって来た。
泉のほとりには花々が咲き乱れ、
私たち二人はその花を食べ、
泉のほとりで顔を洗い、
苦情歌を口ずさんだ。

もっと先へと進む、
追手の追及をかわすために、
荒れた斜面に行き当たった、

荒坡上面有几塊荒田。
哥哥用手去翻田，
手指翻遍了稀泥。
妹妹去翻地，
汗水滴滴了深窩。
雷公打起鼓，
雨水嘩嘩下。
長出了庄稼，
八月是個好收成。
哥哥上山去打獵，
妹妹在家桃花綉。
前面綉一對情人。
美象映山紅；
後面綉一幫打手；
再綉自己的豐收；
還綉山羊野味滿桌香，
一個娃娃白白胖胖，
爹娘在旁邊逗他玩。
哥哥狩獵回家轉，
我睨倆吃着香香的飯。
我睨倆雖是水上的樓房，
但水沖不倒，
火也燒不着。

★：地名。

そこには荒れ果てた田んぼがあった。
にいさんは手でそれを耕し、
指で泥をかき混ぜた。
いもうとは畑を耕し、
滴る汗が穴を穿った。
雷が鳴りだし、
雨がザーザー降ってきた。
作物は育ち、
八月には大豊作を見た。
にいさんは山で狩りをし、
いもうとは家で刺繡をする。
表には一對の恋人を、
山の紅葉を照り映えさせて；
裏には狩りをする人を；
そして自分たちの豊作を刺繡する；
そこには山の幸で一杯の食卓と、
まるまると太った赤ん坊が、
父さん母さんの傍で遊んでいるところを。
にいさんが狩りから帰って来たら、
二人でおいしい御飯を食べよう。
私たち二人、
水は尽きることがない、
火は消えることがない。

b 逃婚歌

『民間文学資料第8集（黔東南，湘西苗族情歌）』
苗族文学史編写組編 1959 pp.63-68

(一)

楊昌松，唐振邦搜集 吳錦整理 1959.7.22

紅色榴皮染成布，
蘭色花綫綉成花，
只要妹心合哥意，
只要哥意合妹心，
姑娘啊！
我倆走吧。
妹從大門出，
黃狗叫一声，
門響父母知；
妹從後園出，
菜葉断也知。
我倆爬坡走，
松葉蓋頭頂，
等到明早晨，
媽帶狗來尋，
哥拿鍊來捆，
仍然找到妹，
仍然找到哥。
哥哥心裏靈，
哥哥告知妹，

紅い榴で布を染める，
蘭の花の色をした糸で花を刺す，
ただいもうとの心とにいさんの心がひとつであればいい，
ただにいさんの心といもうとの心がひとつであればいい，
娘さんよ！
二人で出発しよう。
いもうとが表の門から出ると，
犬が吠えて，
父さん母さんに知られてしまう；
いもうとが裏庭から出ると，
菜っ葉の折れる音で知られてしまう。
二人して坂道を登って行こう，
松葉が頭上を覆っている，
明日の朝になれば，
母さんが犬を連れて捜しにくる，
にいさんが（犬を）縛り上げても，
いもうとは見つかってしまう，
にいさんは見つかってしまう，
にいさんに考えが閃いて，
いもうとにこう告げる，

乖乖回家去，
到家找匹布，
從欄干吊下，
我倆順河走，

渾水填脚印，
沙泥蓋脚底。
一手拉着妹，
一手劃着舟。
順着河水瓢瓢而下，
瓢到施洞口，
劍河好地方，
修的全是樓房，
屋裏住的全是幸福人，
屋前屋後是花園。
到了明晨，
媽喊妹九声，
十句沒聽應。
媽拿棍來打，
走到妹床前；
拍拍床上打，
床上空無人。
媽媽怒衝天，
跑出門來喊：
我的姑娘啊！
你是否還在村上？
若是在村上，
就應你娘一声，
你娘好放心。

おとなしく家へ帰ろう，
家に着いたら布を捜して，
それをテラスから吊し，
二人して河に沿って行こう，

濁り水が足跡を消してくれる，
泥砂が足跡を埋めてくれる。
片方の手でいもうとの手を握り，
もう一方の手で船を漕ぐ。
流れに乗って下って行こう，
流されて施洞口にやって来た，
劍河は良いところ，
家並はみな立派，
家に住む人々はみな幸せ，
家の前も後ろもお花畑。
朝になったら，
母さんがいもうとを九度呼ぶ，
十回呼んでも答えはない。
母さんは棍棒を取り上げて，
いもうとの枕許に行く；
寝床の上をたたいてみたけれど，
寝床はもぬけのから。
母さんは怒って，
門から走り出て怒鳴る：
うちの娘はどこだ！
お前は村にはいないのか？
村の中にいるのなら，
母さんに返事なさい，
そうすれば母さんは安心できる。

村上的人心腸好，
人們応老娘：
誰能藏你女，
你去問你媳
舂米雙腳踏，
簸米二人搖，
走那方她知道。
老娘心着急，
立馬問兒媳，
兒媳啊！兒媳：
姑娘走那一方你可知道？
兒媳心善良，
照實回婆話：
我管得鍋竈，
我管得家畜，
管不得你女，
走那方我不知道；
你去問那些少女們吧，
她們跟她玩，
她們同她住，
走哪方她們知道。
老娘立馬去問少女們：
我姑娘走哪地方她們可知道？
少女們心善良，
立馬回娘話：
我們還年幼啊，
好象剛從土裏長出來的菜苗一樣，
初叫的公鷄不能響遍全村，
我們還不会游方，

村の人達は心根が善い，
婆さんに答えてこう言った：
誰があんたの娘を隠すかね，
あんたの嫁さんにお聞きなさい，
米を搗くのも一緒，
米を篩うのも一緒だったじゃないか，
どこへ行ったか知ってるだろうよ。
婆さんは心せかされて，
すぐさま嫁にこう聞いた，
息子の嫁や！嫁：
娘がどこに行ったか知ってるかい？
嫁さんは心優しいので，
姑に答えてこう言った：
私は竈を仕切ってはいるけれど，
私は家畜の世話はしているけれど，
あなたの娘のことは分かりません，
どこへ行ったのか私は知りません；
その辺の娘達に聞いてみて下さい，
彼女たちは一緒に遊んでいました，
彼女たちは一緒に住んでいました，
どこへ行ったかは彼女たちが知っていますよ。
婆さんはすぐさま娘たちにこう聞いた：
うちの娘がどこへ行ったか知っておいでかい？
娘たちは心優しいので，
すぐに答えてこう言った：
私たちはまだとても幼くて，
まるでたった今芽を出したばかりの菜っ葉と一緒に，
鳴き始めたばかりの雄鷄の声が村中には響かないように，
私たちはまだ游方☆1へ行くことはできません，

走哪一方我們不知道；
你去問大姐們吧，
她們跟她玩，
走哪一方她們知道。
老娘立馬去問大姑娘：
我姑娘走哪方你們可知道？
大姑娘們心善良，
她們親切地回娘話：
菜老了會抽苔，
結過婚的人啊！
已過了青壯年，
老公鷄叫啊！
已不能響遍全村，
我們已不能再游方，
走哪方我們不知道；
你去問那十七，八歲的姑娘們吧，
她們同她玩，
她們同她生，
走哪方她們知道。
老娘立馬去問姑娘們：
姑娘們啊，姑娘們，
我閨女走哪方你們可知道？
姑娘們心直爽，
告訴老娘實話：
昨天和前天啊，
有雙白鷺飛過河，
有對青年來游方，
青年生得很漂亮，
鞋袴穿得很靚，

どこへ行ったのか私たちは知りません；
年嵩のねえさんたちに聞いてみて下さい，
彼女たちは一緒に遊んでいましたから，
どこへ行ったか知っていました。
婆さんはすぐさま年嵩の娘たちにこう聞いた：
うちの娘がどこへ行ったか知っておいでかい？
年嵩の娘たちは心優しいので，
やさしく答えてこう言った：
葉つ葉も育ち過ぎれば藁が立ちます，
結婚してしまった者は！
もう若くはありません，
年取った雄鷄の音が！
もう村中に響かないのと一緒です，
私達はもう游方には行けません，
どこへ行ったのか私たちは知りません；
十七，八の娘たちにお聞きなさい，
彼女たちは一緒に遊んでいました，
彼女たちは一緒に住んでいました，
どこへ行ったかは彼女たちが知っています。
婆さんはすぐさま娘たちにこう聞いた：
娘たちよ，娘たち，
うちの娘がどこへ行ったか知っておいでかい？
娘たちはとても素直だったので，
婆さんに本当のことを話した：
きのうとおととい，
ひとつがいの白鷺が河を渡って，
一組の若者が游方にやって来た，
若者はとても素敵だった，
靴もズボンもとても良く似合っていた，

衣服長到脚後跟，
可能已走了吧。
老娘大發怒，
杵着長拐棍，
到處來尋找，
到了妹住的地方，
碰着妹挑水，
媽媽告訴妹：
舅舅要外甥錢啊！
鷄要一百籠，
銀要一千兩。
妹聽大吃驚，
立馬告訴哥：
哥哥啊！
早晚得這樣，
我不應該跟你來，
我來害了你啊！
為我而使你破產。
哥哥心堅決，
哥哥安慰妹：
我家兄弟多，
請貧的幫九分，
請富的幫一錢五，
九秤秤不動，
秤桿指到天，
拿去給舅舅，
舅舅得了銀錢
買得田和地。
哥哥得妹妹，

着物の裾をなびかせて、
きっともう行ってしまったわ。
婆さんはとても怒って、
長い棍棒を杖にして、
あちらこちらと捜して歩いた、
いもうとの住む所に着くと、
いもうとに水をぶっかけて、
母さんはいもうとにこう言った：
おじさんが外甥銭☆?をよこせと言ってきた！
鷄が百籠
銀を一千兩。
いもうとはそれを聞いてたいそう驚いて、
すぐににいさんに告げた：
にいさん！
こんな事になると知っていたら、
私はあなたについて来るんじゃないかった、
私はあなたに悪いことをしている！
私のせいで破産させてしまう。
にいさんの決意は堅かった、
いもうとを宥めてこう言った：
私には兄弟が沢山いる、
貧しいのには九分、
豊かな人には一錢五分出してもらおう、
九つの秤では量り切れない、
秤の針は天を指す、
おじさんに持って行ってくれ、
おじさんはお金を手にしたら、
田んぼや畑を買うだろう。
にいさんはいもうとを手に入れる、

哥哥安了心。
心中無意亂，
一起到田邊，
做哪一樣活都有勁。
培植我倆的家園，
最幸福的就是我和你，
再也沒有什麼憂愁了。

にいさんは安心を手に入れる。
心乱されることなく，
起きたら田畑に出かけて，
一心に野良仕事。
二人の庭に植えたもので，
一番幸せなのは私とあなた，
そこにはもう何の憂いも在りはしない。

☆1：「遊びの庭」の意味。祭りの日に若い男女が村外れの林や橋のたもとなどの特定の場所に集まり，向かい合って歌を歌い交わす。互いに気に入った相手がみつかり腕輪などを取り交わして求愛する行事。

☆2：父方交叉イトコ婚（女性は母の兄弟の息子と結婚する）の規制があるとき，女性がイトコ以外の男性と結婚する場合に，自分が嫁いで行けないことの代償として母方のオジに支払う金品の事。

c (二)

唐春芳 搜集

有心要成双，
深夜来游方，
等別人都散了，
我俩就成双。
阿妹心急切，
阿妹說：
“哥哥：你在這里等，
我回家去拿衣服，
拿来衣服我倆就走。”
一同走到阿哥的家，
阿哥喊媽媽：
“快起来媽媽，

結ばれたいという心があるのなら，
夜更けて游方にやってきて，
他の人たちがいなくなるのを待って，
私たち二人だけになろう。
いもうとは心急かせて，
いもうとが言う：
「にいさん：あなたはここで待っていて，
私は家に戻って着物を持ってくる，
着物を持ってきたら二人して出発しましょう。」
一緒ににいさんの家へいき，
にいさんは母さんにこう告げる：
「早く起きてくれ母さん，

快起来開門囉！
開門給哥哥，
開門給妹妹。”
媽媽起来了，
青杠樹葉燒火來照亮，
媽媽來看妹，
阿妹臉兒白生生，
阿哥臉兒白生生，
媽媽想得周到，
媽媽問阿哥：
“你引來的這個姑娘，
是人家的媳婦？
還是沒有丈夫的姑娘？
若是人家的媳婦，
那要賠人家很多錢啊！
引她轉回去吧，
讓她回她原來的丈夫家去；
若是沒有丈夫的姑娘，
就留下她吧。
現在是深夜了，
等到明天早晨，
叫一些人去約親友，
叫一些人來殺豬，
準備九罐好酒。”
老人們喜歡好酒，
小孩們喜歡糯米飯，
小伙子們喜歡看姑娘，
我倆喜歡成雙。
妹妹喜歡哥哥，

起きて門を開けてくれ！
にいさんのために門を開けてくれ，
いもうとのために門を開けてくれ。」
母さんが起きてきて，
青杠の葉を燃やして明るくしてくれた，
母さんはいもうとを見る，
いもうとの顔は真っ白，
にいさんの顔も真っ白。
母さんは考えをめぐらせて，
にいさんにこう聞いた：
「お前が連れてきたこの娘さんは，
どっかの嫁さんかい？
それともまだ旦那はいない娘かい？
もしどっかの嫁さんなら，
沢山の金を払わなきゃならないよ！
返しておいで，
その娘さんをもとの旦那の所に；
旦那のいない娘なら，
ここにいてもらいなさい。
今はまだ夜中，
夜が明けたら，
人をやって親戚の契りを結ぼう，
人を呼んで豚を屠ろう，
九壺の上等の酒を用意しよう。」
年寄り達は上等の酒に喜び，
子供たちは糯米御飯に喜び，
若者たちは娘を見るのを喜び，
私たち二人は一緒にになれるのが嬉しい。
いもうとはにいさんが好き，

哥哥喜歡妹妹，
桃花正開在桃樹上，
我倆美滿地成雙。

にいさんはいもうとが好き，
桃の花はいままさに開き，
私たちは一緒になる喜びに満たされる。

c (三)

唐春芳 搜集

阿妹想成雙，
阿哥想成雙，
我倆逃到河邊等，
等着不劃下來，
我倆乘上木船，順水面下。
看遍山來看遍水，
哪裏河水清，
哪裏地方好，
就在哪裏安下家。
不管老人願不願認親，
我倆不去理它。
布染好了就要縫衣裳，
合心合意了就要成雙。

いもうとは一緒になりたいと思う，
にいさんは一緒になりたいと思う，
私達は河辺に逃れて待とう，
船がやって来るのを待って
その船に乗って，流れを下ろう。
通り過ぎる山や河を見る，
どの河の水が澄んでいるか，
どのあたりが良さそうか，
良い場所を見つけたらそこに住もう。
年寄りが縁組を許そうが許すまいが，
二人には関係ない。
布を染め上げたら着物を縫わなくてはならない，
心を合わせたのなら二人は結ばれなくてはならない。

e (四)

雷山公社 李超芳唱
于賀勇搜集 吳錦整理

女：月亮出来月亮黃，
年輕的人們來到寨門游方：
吹木葉響幽幽，
拍手響“打打”。

月が出ました黄色い月が，
若者たちは村の入り口で游方をする：
木の葉笛は嘯々と，
手拍子はパンパンと。

阿哥！
不要吹了，
不要拍了
吹多拍多媽罵，
罵得我多傷心啊。

にいさん！
吹かないで、
叩かないで、
吹いたり叩いたり過ぎると母さんに叱られる、
叱られると私の心はとても痛む。

男：阿妹啲！
不要怕，
老人做成老規矩，
青年才来玩嘛。

いもうとよ！
怖がることなんかないさ、
年寄りには年寄りのきまり、
若い者は楽しむものさ。

女：阿哥在寨边招手，
阿哥在寨边吹木葉，
青帕子不停地搖，
木葉不停地吹，
帕子搖得我心跳，
木葉吹得我心慌。
阿哥不要搖了，
不要吹了，
我倆很快地走吧！
到了哥哥的寨子，
我倆再不操心了。

にいさんは村外れで手招きする、
にいさんは村外れで木の葉笛を吹く、
青いハンカチは揺れ続け、
木の葉笛は鳴り止まない。
ハンカチが揺れると私の心はびくびく、
木の葉笛は私の心をかき乱す。
にいさん揺らさないで、
吹かないで、
私たち二人は大急ぎで出発しましょう！
にいさんの村に着いたら、
私たちはもう心急ぐことはありません。

男：阿妹啲！
你是有心還心無心？
有心就請直說吧，
有心我倆就業快走吧！
分散就不好了，
分散就不易相見了。

いもうとよ！
あなたは気があるのかそれとも無いのか？
気があるのなら素直に言っておくれ、
気があるのなら私たちはすぐに出発しよう！
離れ離れは良くない、
離れ離れになったらめぐり逢うのは難しい。

女：我的心實在想你喲！
 想在心裏深處，
 不知怎樣表達出來，
 不知怎樣說給你聽。

私は心からあなたを想っています！
心の深いところで想っています，
どうやって打ち明ければいいのか分からないのです，
どういうふうに話せばいいのか分からないのです。

男：阿妹喲！
 只要你是這樣的心願，
 那就跟我走吧，
 我俩成雙了，
 再也不操心了。

いもうとよ！
心で想うだけで充分だ，
さあ私についておいで，
私たち二人は一緒になろう，
もう二度と心焦ることはない。

f (五)

唐春芳 搜集

這幾天的月亮真好，
妹妹想收拾衣襟跟哥哥走，
哪怕路上遇強盜，
妹妹不怕。

ここ何日かの月は素晴らしい，
いもうとは着物の裾をまくってにさんの後を追いたい，
道中追剥ぎに遭うのが怖いから，
いもうとは怖がりません。

g (六)

炉山凱棠 楊苦保唱
橋波搜集 吳錦整理

哥是父母生，
妹是父母養，
樹有千枝極，
父親有兩條心。
好的大田大地給哥哥，
大房大屋給哥哥，

兄さんは父さん母さんから生まれた，
妹は父さん母さんに養われた，
木々は千の枝を広げ，
父さんは二つの心を持つ。
広く肥えた田畑は兄さんに，
大きな家は兄さんに，

壞的給妹妹，
只拿只項圈，
一對水桶，
就把妹妹出嫁了。
父親心不好，
從火坑邊送妹妹，
送到大門口就轉回去。
好丑是娘養，
好丑是從娘的懷裏生，
娘送我到寨腳，
我看見伙伴們玩，
在寨旁玩，
在路兩旁吹木葉，
玩得多麼自由啊！
我後悔了，
我不想走了，
決心不去了。
媽媽揚牛鞭抽妹，
打妹几鞭子，
几巴掌打在臉上，
妹妹我痛苦極了，
心如刀割一樣，
心如米糠飛一樣。
不管怎樣，
死我也不去，
活我也不去。
決心跟着阿哥走，
早走早好，
不然那時分散了，

妹には粗末な物を，
ただ首飾りと，
水汲み桶が一組だけ，
そして妹は嫁に出される。
父さんは意地悪，
囲炉裏のそばで娘を見送り，
門まで送ってすぐ引き返す。
母さんに養われたなんて厭わしい，
母さんから生まれたなんて厭わしい，
母さんは村の外れまで見送る，
私は仲間たちが遊んでいるのを見た，
村の外れで遊んでいた，
道の両側で木の葉笛を吹いていた，
なんてのびのびと遊んでいるのだろう！
私は後悔した，
私は行きたくない，
行かないことに決めた。
母さんは牛の鞭で妹をぶつ，
妹めがけて鞭を振り下ろす，
平手で顔を打つ，
私は痛くてたまらない，
心はナイフで割かれて，
籾殻のように粉々になる。
どうなろうと構わない，
死んでも私は行かない，
生きていたって私は行かない。
愛しいにいさんについていくことに決めた，
早ければ早いほうがいい，
でないと離れ離れになってしまう，

再見面就難了。

再び逢うことが難しくなってしまう。

h 逃婚歌

炉山凱棠 楊構保（苗族）唱

1959.1.18 橋波記錄翻譯，1959.2. 桂船人整理

『民間文学資料第十七集（苗族婚姻歌）』 苗族文学史編写組編 1959

pp.146-147

從前的時候，
很早的時候，
媽媽生妹妹，
爸爸養妹妹。
樹子有兩個杈，
爸爸有兩樣心，
好東西給哥哥，
哥哥得房子，
得長田大地；
壞東西給妹妹，
給妹妹一只項圈，
一對挑水桶。

ずっと前のこと，
昔々のこと，
母さんが妹を生んだ，
父さんが妹を育てた。
木には二股の枝，
父さんには二つの心，
良い物は兄さんに，
兄さんは家をもらった，
兄さんは広い田畑をもらった；
粗末な物は妹に，
妹には首飾りがただ一つ，
水汲み桶が一組だけ。

嫁妹妹出門，
爸爸心不好，
在火坑辺送，
送到大門口，
就轉回去了。
好丑是娘養的，
是從好懷裏生的，
媽送到寨脚。

妹が嫁いでいくとき，
父さんは意地悪だった，
囲炉裏のそばで見送り，
門まで送ってくると，
すぐさま帰ってしまった。
母さんに養われたなんて厭わしい，
母さんから生まれたなんて厭わしい，
母さんは村の外れまで見送ってきた。

妹妹走到寨脚，
看見小伙們在玩，
在寨子旁邊唱歌，
在路旁邊吹木葉，
手上拉胡琴：

“妹妹離開了媽媽”，
妹妹座不了家鄉，
死了心才出客，
這一去就去久了，
好像月亮落坡，
太陽也照不到，
姑娘就座在陰暗地方。”

“想通了沒有？姑娘！
想通了就來玩，
就來唱唱歌，
玩一會也行。
不來玩我們就分散了；
等到來年時候，
還有什麼指望呢，
背小孩在肩上，
想來玩也不行了。”

姑娘後悔了，
媽媽叫往前走，
媽媽揚牛鞭，
打妹妹几下，
打妹妹几巴掌。

妹が村外れまで来ると、
仲間達が遊んでいるのが見えた、
村の外れて唱っている、
道の傍らで木の葉笛を吹いている、
その手では胡琴を奏でている：

「妹が母さんから離れたら、
もう故郷には留ってられない、
諦めて出ていくしかない、
一度出てしまえば行ったきり、
まるでお月様が沈んでしまったよう、
お陽様も照らしてくれない、
娘は暗い所に閉じ込められる。」

「分かったかい？娘さん！
分かったら一緒に遊ぼう、
一緒に歌を歌おう、
ちょっとした間でもいいから。
そうでないと俺たちは散り散りになってしまう；
来年まで待っても、
一体どんな楽しみがあるんだい、
背中に赤ん坊を背負ってでは、
遊びたくても遊べやしない。」

娘は後悔した、
母さんはさっさとお行きと急ぎ立てる、
母さんは牛の鞭を振り上げて、
妹めがけてふり下ろす、
妹を平手でぶつ。

妹妹心苦極啦！
妹妹的心像米糠，
像米糠飛走了。
馬找着草吃，
妹妹悄悄跑走了。

妹はとてもつらい！
妹の心は米糠のよう、
米糠のように飛び散った。
馬が草を探している隙に、
妹はこっそりと逃げ出した。

i 逃婚歌

『民間文学資料第12集（苗族古歌与情歌合集）』

苗族文学史編写組編 1959 pp.80-81

威寧龍街公社大寨 楊永林唱 朱顯輝搜集 1958年

韓紹綱訳 1959年8月

男：晴朗朗的天呀，
晴朗朗的天喲！
晴朗朗的天真真好，
好我倆情哥情妹上路喲！

我倆情哥情妹向前走，
我倆情哥情妹向前行。
走呀走，行呀行，
走到羊街對面的傍山險路上。

晴れわたった空よ、
晴れわたった空！
晴れわたった空は素晴らしい、
私たちふたりには絶好の旅立ち日和だ！

羊街對面的傍山險路喲！
狂風不断往後吹，
狂風不住往後刮。
狼狼的狂風喲！
吹不倒情哥情妹。
狼狼的狂風喲！
指引了情哥情妹的去向。

私たちふたりは前へ進む、
私たちふたりは前へ向かう。
さあ行こう、さあ進もう、
羊街にむかいあう険しい山道にやってきた。

羊街の向かいの山の険しいことよ！
風はやむことなく吹きつけて、
風はやむことなく吹きぬける。
狂ったように吹く風よ！
このにいさんといもうとは吹き倒されない。
狂ったように吹く風よ！
このにいさんといもうとを導いてくれる。

狼狼的狂風喲！
刮不倒情哥情妹。
狼狼的狂風喲！
真真領了情哥情妹的路。

狂ったように吹く風よ！
このにいさんともうとを薙ぎ倒したりしない。
狂ったように吹く風よ！
このにいさんともうとを正しい路に導いてくれる。

好心的情哥喲問妹妹，
老人們說這裏有股好泉水，
到底在哪裏啊，妹妹！
情妹妹說：
那股好泉水喲！
坎上岩縫裏流出来的就是。

こころやさしいにいさんがいもうとに尋ねるよ，
年寄りたちがここにきれいな泉があるといていたけれど，
いったいどこにあるのだろうか，いもうとよ！
いとしいいもうとが答えます：
それがその泉ですよ！
岩のくぼみから流れ出ているのがそうですよ。

這地点好遮陰，
這地点好乘涼
我倆哥妹在這裏歇歇，
順便喝点涼水。

ここはちょうど日陰で，
ここはうまいぐあいに涼しい，
ここで一休みしよう，
冷たい水をひとくち飲もう。

女：晴朗朗的天呀，
晴朗朗的天喲！
晴朗朗的天真真好，
好我倆情哥情妹上路喲！

晴れわたった空よ，
晴れわたった空！
晴れわたった空はほんとうに素敵，
私たちふたりには絶好の旅立ち日和り！

我倆情哥情妹向前走，
我倆情哥情妹向前行。
走啊走，行啊行，
走到羊街对面的坡上。

私たちふたりは前へ進む，
私たちふたりは前へ向かう。
さあ行きましょう，さあ進みましょう，
羊街にむかいあう険しい坂道にやってきました。

羊街对面的坡啊！
碎石多得狠，

羊街にむかいあう坂道よ！
なんて石ころだらけな道，

情妹的光脚板喲！
碎石刺的辣呼呼。

いもうとの裸足の脚よ！
石が棘のようにつきささる。

好心的妹妹喲！
指着光脚板問哥哥：
老人們說，這裏有股好涼水。
到底在哪裏喲？哥哥！
情哥哥說：那股好泉水喲！
坎下大樹腳的就是。

ころろやさしいいもうとは！
裸足の足をゆびさしてにいさんに尋ねます：
年寄りたちがいました、このあたりに冷たい水があると。
いったいどこにあるのでしょうか？にいさん！
いとしいにいさんが答えます：それがその冷たい水だよ！
大樹の根元から湧いているのがそれだよ。

這地点好歇涼，
這地点好遮陰，
順便歇氣吧！
我倆吃炒面。

ここはきもちよく涼しいところ、
ここはいいぐあいの日陰、
一休みしましょう！
ふたりにチャオミエンを食べましょう。

合：我倆情哥情妹喲！
同是窮人家的兒女，
我倆互相了解了，
我倆志向相投了，
你不能丟棄我，
我不能舍棄你。

私たちふたりは！
同じく貧しい家の子、
ふたりは互いに分かりあえる、
私たちの考えは同じ、
あなたはわたしを捨てたりできない、
わたしはあなたをないがしろにはできない。

走啊，逃啊！
逃啊，走啊！
朝太陽照的地方走啊！
朝太陽照的地方逃啊！

行きましょう、逃げましょう！
逃げましょう、行きましょう！
太陽が輝く方にむかって行きましょう！
太陽が照らす方をめがけて逃げましょう！

到了理想的地方，
我倆來安家落戶。

理想の土地に着いたら、
そこで家をかまえよう。

到了太陽照的地方，
我倆來成家立業。

太陽が輝く場所に着いたなら，
そこで暮らしを立てよう。

老父老母喲！
恁個說恁個好。
寨頭裏老喲！
夢想搯散我倆的愛情。

年とった父さん母さんときたら！
自分たちの思ったとおりにしようとする。
村の年寄りときたら！
私たちふたりの愛情をひき裂こうとする。

j 逃 婚 歌

陶自改唱 楊漢先搜集 韓紹綱翻譯

『民間文学資料第二十九集（滇黔，湘西苗族歌謡集）』

貴州省民間文学工作組編 1961年 pp.21-22

今年我們會曉得，
曉得爹爹媽媽呵生得有，
生得有兄妹兒女兩個，
姐姐生的是個男娃，
弟弟養的是個女娃。

今年になって私たちは知った，
父さん母さんから生まれたら，
生まれたのが男と女なら，
姉さんが生むのは男の子でなければ，
弟が育てるのは女の子でなければ。

姐姐的女兒呵生得美麗，
身体樣兒如同河邊的楊柳技技，
苗條樣子如像河岸的楊柳条条；
臉面細嫩又好看，
好像紅紅的桃花一朵，
又像鮮艷的茶花一枝。

姉さんの所の娘は生まれつき綺麗，
身体つきは川辺の柳のよう，
身のこなしは川岸の柳が風に揺れるよう；
顔は肌の肌目も滑らかに，
咲き誇る桃の花のよう，
艶麗な椿の花のよう。

弟弟的兒子呵生得俊俏，
臉面肉皮薄薄像竹葉，
肉皮臉面勻称像草葉。

弟の所の息子は生まれつき凛々しい，
顔は笹の葉のようにつやつやと，
若草のように瑞々しい。

表姐愛慕着表弟，
表弟思念着表姐，
表姐表弟相愛了，
姐弟兩相約就把婚逃。

從姉は從弟を慕い，
從弟は從姉を想う，
從姉と從弟は愛し合い，
二人は駆け落ちを約束しあう。

逃到杜那一莫河岸辺，
逃到杜那一莫河那邊，
住在崩崩地方壩子上，
居在崩崩地方壩子上，

一莫河のほとりまで逃げてきた，
一莫河の岸辺までにげてきた，
崩崩のあたりの盆地に落ち着いた，
崩崩のあたりの盆地に住み着いた。

姐姐弟弟呵，
安居在崩崩壩子上，
起得茅棚一間做家居，
起得円棚一間做家居。

ねえさんとおとうとは，
崩崩盆地に住んで，
一間きりの粗末な家を建て，
粗末な家を住みかにした。

姐姐勤紡織，
弟弟勤耕作，
姐姐弟弟兩呵，
就在崩崩壩子勤勞耕織度生活，
就在崩崩壩子勤勞耕織過日子。

ねえさんは糸を紡いで機を織り，
おとうとは野良仕事に精出した，
ねえさんとおとうと二人は，
崩崩盆地で機織りと野良仕事に精出した，
崩崩盆地で機織りと野良仕事をして暮らした。

姐姐麻布織的白又細，
還種有綿花，
還紡有綿綫，
還織有綿布。

ねえさんの織る麻布は白くてしなやか，
棉花も植えて，
木綿の糸を紡ぎ，
木綿の布も織る。

弟弟包穀種得多又好，
還有洋芋，
還有蕎麥，

おとうとの植えたトウモロコシは豊作だった，
じゃがいもも植えた，
蕎麥も植えた，

還有小米，紅稗。

粟や稗も作った。

姐弟兩有吃又有穿，
姐弟兩有穿又有吃，
如像一對自由鳥兒樂滋滋，
如像一對鴛鴦永遠相依偎。
(歌至此完)

ねえさんとおとうには食べるものがあり着るものがあった，
ねえさんとおとうには着るものがあり食べるものがあった，
つがいの鳥のようにしみあい，
つがいの鴛鴦のようにいつまでも一緒に。
(ここで歌は終了)

k 逃婚歌 (貴州苗族民間長歌)

『民間文学』1960年第10期 pp.54-63

女：岩上的青藤，
沒有生根的地方。
逃婚的我啲！
沒有訴苦的地方。

岩窩裏的葡萄藤，
沒有生枝長葉的地方。
逃婚的我啲！
沒有訴苦的地方。

逃婚的我啲！
像沒有繡上花邊的圍腰一樣，
寨老們總是說我的壞話，

如果我是沒有繡上花邊的圍腰，
伙伴們為什麼把我夸講？

逃婚的我啲！

岩の上のアオカズラは，
根を生やす場所がない。
駈け落ちする私！
苦しみを訴える場所もない。

岩の窪みの葡萄の蔓は，
葉を茂らせる場所がない。
駈け落ちする私！
苦しみを訴える場所もない。

駈け落ちする私！
まるで刺繡のない帯のよう，
村の年寄り達は私に良くない事ばかり吹き込む，

もし私が刺繡のない帯ならば，
仲間達は どうして私のことを良く言ってくれるだろうか？

駈け落ちする私！

像一粒掉落在山谷裏的紅米珠，
爹娘一点不心痛；
逃婚的我喲！
像一朵朵人看管的野花，
兄弟們沒有一絲同情心。

山の谷間に落ちた一粒の高梁，
父さん母さんは少しも気にかけてくれない；
駈け落ちする私！
誰も目をとめることのない野の花，
兄弟たちは一かけらの同情も寄せてくれない。

男：山河啊！
雖然美麗，
綫被烏雲遮蓋着；
我的心啊！
痛苦那樣多，
沒有人來安慰我。

山よ！川よ！
美しい筈なのに，
黒い雲に遮られて見えない；
私の心！
こんなにも悩み多いのに，
誰も慰めてくれない。

逃婚的我喲！
像那漂蕩的浮萍，
只有漂流到各個地方；
像一只無林歸宿的小鳥，
只有飛到那高高的山頂；
逃婚的我喲！
像沒有糊神的傘架，
寨老說我不是正經人。
如果我是天上的一顆流星，
伙伴們為什麼為我發愁？

駈け落ちする私！
まるで水に漂う浮草，
漂ってどこかへ流れ着くだけ；
まるで帰る場所のない一羽の小鳥，
高い山の頂まで飛んでいだけ；
駈け落ちする私！
まるで紙の貼ってない唐傘，
村の年寄り私を真当じゃないと言う。
もし私が空の流れ星なら，
仲間たちはどうして私を哀れんでくれよう？

逃婚的我喲！
像那小小的山鷄，
滿山遍野地哀鳴；
像雨後濕透了翅膀的小鳥，
冷得直打哆嗦也沒有人可憐。

駈け落ちする私！
まるで小さな雉，
山中あまねく哀しく鳴き渡る；
まるで雨で翼の濡れた小鳥，
寒さにうち震えていても誰も哀れんでくれない。

女：逃婚的我喲！

徘徊在九座高山上。

太陽啊！

照着三条大路。

我站在山頂上張望，

条条道路交錯着，

哪条才是我逃走的路？

駈け落ちする私！

九つの山を徘徊する。

お天道様！

大通りを照らしている。

私が山の天辺から眺めると、

幾筋もの道が行き交っている、

どれが私の逃げる道なのだろう？

女：逃婚的我喲！

想来想去没主張，

朝着中間的大路走，

怕遇見壞商人；

走左边的路吧，

又怕官家的子弟欺侮。

駈け落ちする私！

いくら考えても決まらない、

まん中の道をとれば、

悪い商人に遭うのじゃないかしら；

左の道をとれば、

お上の手下に絡まれるのじゃないかしら。

蜜蜂嗡嗡叫，

声音那樣嘈雜。

逃婚的我喲！

心緒乱如麻。

蜜蜂がワンワンと飛んでいる、

どうしてそんなに煩いのだろう。

駈け落ちする私！

心は千々に乱れる。

小小的田鷄子啊！

你不停地哀唱，

使我的心啊！

痛楚得像刀攪一樣。

小さなハイタカよ！

お前はひっきりなしに哀しく鳴き続ける、

私の心は、

ナイフの切っ先で掻き回されたように痛む！

逃啊！

像金魚逃出魚網，

省得丈夫把我打傷。

逃啊！

逃げましょう！

金魚が網から逃れるように、

旦那が私をぶてないように。

逃げましょう！

像小鳥飛出籠子，
免得公婆將我逼死。

小鳥が籠から逃れるように、
姑が私を死に追いやれないように。

男：逃婚的我喲！

抬頭望雲朵，
雲朵來回漂蕩。
我的心啊！
漂蕩在海角天涯。
我調頭環看大地，
大地烟霧沈沈，
這樣多的路啊！
哪条才是我逃走的路？

駡け落ちする私！
顔を上げて雲を見ると、
雲は飄々と漂っている。
私の心は、
この世の果てまで流れていく！
頭をめぐらせて大地を見れば、
そこには霧が立ちこめている、
なんて沢山の道！
一体どれが私の逃げていく道なのだろう？

逃婚的我喲！
仰頭望青天，
青天藍靛靛。
逃婚的我喲！
聽見山那邊的小鳥叫嘖嘖，
我扮成個生意人逃出家門。
小蜘蛛牽着綫兒走，
我的心喲！
像交錯的河流，
像亂麻難理清。

駡け落ちする私！
青い空を仰ぎ見れば、
空は蒼く蒼く澄み渡っている。
駡け落ちする私！
山の中で小鳥がさえずるのを聞く、
商人になりすまして家から出よう。
ちいさな蜘蛛が糸を引いている、
私の心は、
合流する流れのように、
混じり合って澄むことがない！

告訴你喲！妹妹，
当我吃飯燙咀還好哭的時候，
父母就忙着給接了親：
当我拿上鞭子還不会趕牛的時候，
寨老就催着替我完了婚。

あなたに話そう！いもうとよ、
私が腹が空いても泣くことしか知らなかった頃、
父さん母さんは早々と嫁取りをした；
鞭を持って牛を追う事もまだできなかった頃、
村の年寄り私の代わりに式を挙げてしまった。

我牽得牛來還不會架牛軛，
親戚帶我去接親說是引去做客；
我放着羊群還不會跟羊走，
舅舅們帶我去完婚說是引去趕花場。

私が引いてきた牛にまだ首枷も嵌めることができなかった頃、
親戚の者たちが私を連れて嫁迎えに行き客を呼んだ；
羊を放牧してもまだ羊について行けなかった頃、
おじたちが私を婚礼の席に連れて行き宴会を開いた。

小燕要離開老鷹的眼睛，
就要高高地飛；
我要逃出這討厭的家庭，
就得遠遠離去。

燕は鷹の目から逃れるために、
高く高く飛ぶ；
私はこの厭わしい家から逃れるために、
遠い遠い所へ行くんだ。

女：天空飛着朵朵黑雲，
我雖然逃去來了，
丈夫家的禮銀還拴着我的衣襟；
我雖然逃去來了，
丈夫家的羊群還拉着我的花邊。

空には黒雲が散っている、
私は逃げて来たけれど、
旦那の家の結納金はまだ裾のあたりに纏わりついている；
私は逃げて来たけれど、
旦那の家の羊の群が着物の端を引張っている。

男：你逃出来了，
就像金絲掙脫了箴圈。
如果你有心愛我，
丈夫家的禮銀割得斷。
你逃出来了，
像金魚脫離了魚網。
如果你有心愛我！
丈夫家的羊群我来賠償。

あなたは逃げて来た、
金絲猴が罫からぬけ出すように。
あなたが私を愛しているのなら、
旦那の家の結納金なんかどうとでもなる。
あなたは逃げて来た、
金魚が網から抜出すように。
あなたが私を愛しているのなら、
旦那の家の羊の群は私が弁償しよう！

女：唉！我的情哥哥啲！
在早些時候，
我像一朵花還沒有開放，
爹娘見了人家的穀子晒滿院就心裏慌。

ああ！私の愛するにいさん！
昔は、
私はまだ固い蕾でした、
父さん母さんはよその庭に干してある穀物を見て気がせいたのです。

在早些時候，
我像穀粒還沒有吐漿，
爹娘見了人家的羊群心裏就想。

我的情哥哥喲！
當我還用衣袖去擦鼻涕的時候，
爹娘就把我出嫁了；
我穿的衣裳自己還不會連花邊的時候，
寨老就把我送往來夫家的門上。

男：我的情妹妹喲！
現在已經逃出了苦海，
走上了人間的路，
我倆手拉着手翻越重重的山嶺；
如今逃到了重重的山坡上，
我倆脚跟腳奔向遙遠的地方。

我的情妹妹喲！
不怕丈夫家的礼金，
拴着你的衣裙，
它拴不住你我逃走的心；
不怕丈夫家的羊群，
連着你的花邊，
它會被我倆割斷。

女：我的情哥哥喲！
我和你相遇在趕牛的路上，
我有心來又怕你無心；
我倆相遇在人家洗衣的河邊，

昔は、
私はまだ実の入らない穀物でした、
父さん母さんはよその羊の群れを見て心に想うところがあったのです。

私の愛するにいさん！
私がまだ袖口で鼻をこすっていた頃、
父さん母さんは私を嫁に出してしまいました；
まだ自分で刺繡した着物も着れない頃、
村の年寄りたちは私を旦那の家に連れて行ったのです。

私の愛しいもうとよ！
もう苦しみの海から逃れ出たんだよ、
人の道を歩いて行こう、
私たちは手に手をとって重なる峰々を越えてきた；
山の頂まで逃げてきて、
二人の脚ははるか遠い所へと向かっている。

私の愛するいもうとよ！
旦那とこの結納金なんか気に病むんじゃない、
着物の裾に纏いついてたって、
あなたと私の逃げようとする心にはかなわない；
旦那とこの羊のことなんか気にするんじゃない、
着物の端に取りついてたって、
私たちの仲を裂くことはできないんだよ。

私の愛するにいさん！
私とあなたは牛を追う道々知り合った、
私は想いを寄せているけれどあなたにその気がないんじゃないかと心配；
私たちは河辺の洗濯場で出会った、

我愛你啊！

又怕你不愛我。

如果我俩逃到了人間好的地方，
怕你的爹娘会失去那些牛站子；
我俩找到了人間好的大壩，
怕你爹娘会失去那些肥美的田庄。

当我俩成家的時候，
別人穿起花衣配銀鐲，
我没有這些花衣銀鐲啊！
怕你以後說閉話；
別人穿起綢衣掛金珠，
我没有這些綢衣掛金珠啊！
怕你心上不喜歡。

男：我的情妹妹啊！

只要我俩能够建立起美好生活，
我絕不可惜爹娘的那頭老黃牛；
只要我俩找到了幸福的天地，
我絕不留戀父母的那些瘦土瘦田。
只要不失我俩的愛情，
吃山芋野果心中也甜；
只要不失去你和我的真心，
穿粗麻破衣心中也溫暖。

在早些時候，
父母会制不会配車筒，
就為我定下了婚事；

私はあなたを愛しています！

でもあなたは私を愛していないんじゃないかと心配。

私たちが善人の住む所へ逃げ延びたら、
あなたの父さん母さんが牛追いを失ってしまうのが気がかり；
私たちが善人の住む盆地を見つけたら、
あなたの父さん母さんが肥えた田畑を失ってしまうのが気がかり。

私たち二人が夫婦になるとき、
他の人は晴着を着て銀の飾りをつけるけれど、
私にはそんな晴着も飾りもない！
あなたはもう口を利いてくれないんじゃないかと心配；
他の人が絹の着物を着て宝石を飾っていても、
私には絹の着物も宝石もありません！
あなたが内心つまらなく思っているんじゃないかと心配。

私の愛しいもうとよ！

私たちはただ望み通りの暮らしができれば充分、
私は決して父さん母さんの牛なんか惜しくない；
私たちはただ幸せに暮らせる土地を見つければそれで充分、
私は決して父さん母さんの獲せた田畑に未練なんかない。
二人の愛情さえなくなさなければ、
山芋や木の実を食べても心は満ち足りている；
ただあなたと私の真心さえなくなさなければ、
粗末な麻の着物を着ても心は暖かい。

昔は、
父さん母さんはしきたりに逆らえなくて、
私の婚礼を決めてしまった；

在早些時候，
父母會制車筒不會配車皮，
就為我找了個不相稱的妻子。
我幼小的心靈，
通苦訴不完。

告訴你啲！妹妹！
別人穿着蜂蟻劃的花衣，
我身上却露出了肉皮。
伙伴們掛着染金色的飄帶，
我身上掛的是布筋筋。

女：我的情哥哥啊！
你說得那麼真情，
像刀子割着我的心：
你訴得那樣真實，
像刀子插進我的心裏。
以前我的爹娘啊！
只知道喝酒吃肉，
哪知道我的眼淚像水流；
以前我的父母啊！
只曉得要金子銀子，
哪曉得我的通苦悶在心頭。
不到花開的季節蜜蜂不會飛來，
我在年幼時媒人就等到家中，
鳥兒不拍翅膀不會生風，
玩着泥巴的我啲却被哄出了大門。

我用根鐵杆試水太深，

昔は、
父さん母さんはしきたりに逆らえなくて、
私に不釣合な嫁さんを捜してきた。
私の幼い心は
苦しみを訴えることもできなかった。

あなたに話そう！いもうとよ！
他の人は臘結染めの着物を着ているも、
私はボロボロの着物。
仲間たちは金に染めた帯を締めているのに、
私はただの布切れを巻いているだけ。

私の愛しいにいさん！
あなたは本当の事を言っている、
ナイフのように心に突き刺さる；
あなたは本当の事を話してくれた、
ナイフで私の心に切り込むように。
昔私の父さん母さんは、
酒を飲んで肉を食うことしか知らなかった！
私が河のような涙を流しているのを知ろうとしなかった；
昔私の父さん母さんは、
お金のことしか頭になかった！
私が心から悩んでいることなんか分かつてもしなかった。
花が咲かなければ蜜蜂は飛んで来ないのに、
私がまだほんの小さい頃に仲人が家の中までやって来た、
鳥は羽ばたかなければ風は起きないけれど、
泥んこ遊びをしていた私は門から放り出されてしまった。

鉄の棒で水の深さを測ったら水はとても深いので、

知道婆婆是個大黒心；
我拿根白杆試水水是那樣渾，
知道公公是個大悪棍。

姑が腹黒いことを知った；
白い棒で水のきれいさを測ったら水はとでも濁っていたので、
舅が性悪なことを知った。

我背着桶水上不了石坎，
丈夫見了恨在心裏面；
我抬甌子還沒甌子高，
丈夫对我一凶二悪。

私は背負った水桶を石塀の上まで持ち上げられない，
旦那は意地悪くそれを見ていた；
私が甌を持ち上げられないでいると，
旦那は悪態をつくばかり。

不管丈夫家的羊群滿圈，
它迷不住我逃走的心；
那怕丈夫家的金銀堆滿倉，
它買不了我給他家做吃做穿的心的。

たとえ羊が囲いの中に満ちていても，
私の逃げたいという心を押さえ付けることはできなかった；
たとえ金銀が蔵に溢れていようと，
私の仕える心を買うことはできなかった。

牛不願架上牛軛，
犁三鐮就要被撬脫；
馬不願配上馬鞍，
騎三步就要被踢翻。

牛は軛を嵌められることを願ったりはしない，
三畝も耕せば犁を外したくなる；
馬は鞍を置かれることを願ったりはしない，
三步も歩けば振り落としたいくなる。

没有柱頭的房子終久要倒，
没有愛情的夫妻終久要分離；
没有基石的牆墩終久要塌，
不同心合意的人始終合不来。

柱のない家は倒れるしかない，
愛情のない夫婦は別れるしかない；
基石のない塀は崩れるしかない，
心のかみ合わない人間はいつまでたっても平行線。

告訴你啊！哥哥，
妹妹只有逃出這火坑，
去尋找幸福的愛情，
去建立美好的家園。

あなたにお話ししましょう！にいさん，
私はこの火の中から逃れたいだけ，
幸福な愛情を求めて，
楽しい家庭をつくりましょう。

男：我的情妹妹啊！

你說得那樣合我的心，
好像一塊布兒繡上了花；
你訴得那麼合我的意，
好像白紙寫上了文章。

告訴你啊！妹妹！

雄鳥拍翅叫三聲，
我就上坡去犁地，
太陽當頂了，
口渴得很啊！
無人送來一滴水；
我又犁到月亮爬上東山，
肚子餓得很啊！
無人送來一粒飯。

我辛苦九年在高山，
想望着幸福的一天；
我焦愁八年在河邊，
想望着一個美好的家園。

女：往年的苦啊！

像流不斷的大江水，
訴也訴不完；
從前流的淚啊！
洒遍了田壩和山林。
我在丈夫家，
吃三粒米還沒進肚，
公婆罵着說：

私の愛しいもうとよ！

あなたの話は私の心とまるで同じ，
布に花を刺繡したよう，
あなたの訴えは私の考えとまるで同じ，
白い紙に書いた文章のよう。

あなたに話そう！いもうとよ，

雄鶏が羽ばたいて三声鳴いたら，
坂をのぼって野良仕事に行く，
お日様は真上から照りつけ，
喉はからから！

でも一滴の水を運んでくれる人もいない；

月が東の山の端に顔を出すまで働く，

腹はベコベコ！

でも一粒の御飯さえ運んでくれる人はいない。

私は九年つらい山の上で暮らし，

幸せな一日を待ち望んでいた；

私は八年鬱々と河辺で過ごし，

円満な家庭を夢見ていた。

長い間の苦勞！

それはまるで大河の流れのよう，

話しても話し切れない；

これまで流した涙！

それは田畑や山を遍く濡らした。

旦那の家では，

三粒の米も飲込まないうちに，

姑が罵る：

“九籬玉米被你吃光了。”
吃三口飯還沒下肚，
丈夫踩着腳說：
“八倉穀子被你吃完了。”

「箕九つ分のトウモロコシを皆食っちまった。」
三口の御飯も食べないうちに、
旦那が脚を踏み鳴らして言う：
「蔵八つ分の粟を皆食っちまった。」

天空沒有雲霧雷也會吼，
我空着肚子做活也要挨罵；
天空沒有雲霧雨也會下，
我餓着肚子做活還要挨打。
太陽落山還對籬笆笑一笑，
我把金山搬了來公婆還嫌少；
月亮落山還對樹梢笑一笑，
我把銀山搬了來丈夫也不會變好。

空に雷雲がなくても雷鳴が轟く、
私はすきっ腹を抱えて罵られながら働いた；
空に雨雲がなくても雨が降る、
私は空きっ腹を抱えてぶたれながら働いた。
陽が落ちてまがきがシャラシャラと音立てる、
金山を運んできても姑はまだ足りないという；
月が落ち梢がシャラシャラと音立てる、
銀山を運んできて旦那の機嫌は直らない。

情哥哥啊！
我倆相好在這山卡卡，
寬寬的大河怎麼渡過？
我倆相愛在這幽幽的森林下，
重重大山阻礙我倆去成家。

愛しいにいさん！
私たちは好き合ってこの山の中にいる、
広い広い大河をどうして渡りましょうか？
私たちは愛し合ってこの深い森の中にいる、
幾重にも重なる山々が私達の結婚を阻んでいる。

男：情妹妹啊！
我倆受的苦，
像大河那樣深，
讓我倆把苦來吐盡；
吐盡我倆的苦啊，
就是純真的愛情。
前面是寬寬的大河，
大雁飛得過，
前面有重重的大山，

愛しいいもうとよ！
私たちが受けた苦しきは、
大河のように深い、
二人の苦しみを吐き尽くそう；
吐き尽くした苦しみが、
それが純粋な愛情だ。
目の前に広がる大河は、
大雁なら飛び越えられる、
目の前の峨々たる山は、

大鷹能飛越。
我倆不像寨老那樣惡心，
漢族船夫會渡我倆過去；
我倆不像舅舅那樣黑心，
漢族船夫會渡我倆過去。

大鷹なら飛び越えられる。
私たちは村の年寄りのように意地悪じゃない、
漢族の船頭さんが渡してくれる；
私たちはおじさんのように腹黒くはない、
漢族の船頭さんが渡してくれる。

我倆到了美好的地方，
河那邊的雷聲也吼不到我們；
我倆到了幸福的地方，
山背後的黑風也吹不到我們。

私たちが素敵な所に着いたなら、
あの河のほとりの雷はもう聞こえない；
私たちが幸福の地に着いたなら、
山の後ろで吹く禍々しい風はもう吹かない。

你挖我犁把糧食蓄滿倉，
不納給皇家一顆糧；
你挖我砍把庄稼收滿樓，
不納給地主一粒租子。

あなたが掘り起こして私が耕し食糧を蔵に満たそう、
お上になんて一粒だって納めるものか；
あなたが掘って私が伐って家の中を収穫で満たそう、
地主になんて一粒だって納めるものか。

我倆住的雖是茅草房，
吃的雖是菜飯米糠，
我們的愛情啊！
像地久天長。

あばら屋に住んでいても、
菜飯と米糠を食べていても、
私たちの愛情は、
地の如く天の如くいつまでも！

Ⅰ 私奔歌（苗族情歌）

『民間文学』1982年第10期 p.83

幾多の困難を乗り越えて、ついに一生涯の誓いを交わし、男が耕し女が機を織る生活に入り、二人の楽天地を作る。また一般に、自由恋愛の歌の掛け合いで夫婦になった者は、鳴り物入りの繁瑣な儀礼の手続きを踏む必要がないといわれる。私奔（駟け落ち）はこの簡単な方法の一つであり、そのため私奔歌がある。女から唱い出す：

初回離開了父母的懷抱，
去過另一種陌生的生活，
我禁不住一陣陣圍心猛跳。

初めて父さん母さんの懷を離れて，
別な新しい暮らしを始める，
心が高鳴るのをおさえ切れなない。

既然個個都要走這樣的路，
我也只好学着別人的樣子，
心慌意乱顧不得臉紅害羞……

それぞれがこうした道を歩んでいくと言うけれど，
私はただ他の人から学ぶだけ，
心急いで気持ちは乱れ恥ずかしいなんてことは構ってられない……

只有月亮兒伴我一起走，
真叫我又覺孤单又憂愁，
這路兒是窄是寬不清楚……

ただ月明りだけをお伴に歩く，
いやがうえにも孤独と不安をかき立てられる，
この道が広いのか狭いのかさえ分らない……

望郷，ためらい，不安の感情が言葉の端々に溢れていて，女性の優しさや細やかさが余すところなく表現されている☆。

☆：原文の前後にこのようなコメントが付されている。

m 逃婚歌

楊発芬（苗族）唱 潘任鼎（苗族）整理
『南風』1985年第1期 p.38

二月逃婚走出門，
想来想去主意真；
咬破指頭吃血酒，
有志逃去不變心。

二月に駆け落ちをして家を出た，
気持ちに偽りはないと見極めて；
指を噛み破って血の酒のみ，
心変わりほししないと誓った。

四月逃婚過山梁，
山梁有人盤問郎；
不怕哪個來盤問，

四月駆け落ちをして山を越えた，
山の中である人が若者を問い詰めた；
この問い詰めにひるむことなく，

說是干姐送干郎。

義兄弟の姉を送っていくのだと答えた。

八月逃婚翻大坡，
幾道山坡幾条河；
想減爹娘聽不見，
放心不下眼淚落。

八月駢け落ちをして大きな丘を越えた，
丘には幾すじかの道と幾すじかの河；
もう父さん母さんに見つかることもあるまいと，
安心したら涙が落ちてきた。

九月逃婚路難行，
一路風吹雨又淋；
郎衣妹裙全濕透，
同甘共苦一條心。

九月駢け落ちをして難渋した，
風が吹いて雨が降る；
二人して身体中ずお濡れになっても，
苦も楽も心はひとつ。

十月逃婚過橋頭，
橋下水飄釣魚鉤；
願上鉤的定遭難，
妹不上鉤才自由。

十月駢け落ちをして橋を渡った，
橋の下には釣針が浮かんでいた；
針に掛かれば災難に遭うに違いない，
いもうとは針に掛からず逃げおさせた。

臘月逃婚回家鄉，
三親四友來商量；
姻緣不是爹娘配，
全靠自主配成雙。

年の瀬に駢け落ちをして故郷に帰った，
親類知人と相談した；
縁組は父さん母さんのすることじゃない，
すべては当の二人で決めるもの。